

発行責任 六会地区自治会連合会  
連絡先 六会市民センター ☎81-6677

## 新潟県柏崎市北条地区との訪問交流会開催！

六会地区と新潟県柏崎市北条地区とは、2012年（平成24年）2月5日に「地域間交流のための覚書」を締結し毎年行き来をしている関係にあります。

昨年は10月18日に江の島で交流会を開催し、翌日「第36回六会公民館ふるさとまつり」に参加いただきました。

今年は北条地区の総合防災訓練が6月28日に実施されることから、自治会連合会の主催で視察研修会を兼ね、また、防災リーダー連絡会の応援を得て、自治連関係団体・自治会・町内会・郷土づくり推進会議・防災リーダーの皆さん総勢34人の参加により6月27日・28日の2日間北条地区との訪問交流会を開催しました。

中越地震・中越沖地震の2度にわたり被災された北条地区の総合防災訓練に参加し、真剣に取り組んでいる北条地区の皆さんを目の当たりに見て、六会地区の皆さんは大いに刺激を受けたのではないのでしょうか。北条地区の防災施設の整備や情報連絡体制の充実などを含め、この貴重な体験を今後の六会地区の防災・減災活動に活かしていければと考えています。

自治会連合会会長 五十嵐 英機

6月27日(金)7:30、34人を乗せたバスは六会市民センター(仮庁舎)を出発し、新潟県柏崎市北条地区へ向かいました。渋滞に巻き込まれながらも川越での昼食休憩を短縮して、何とか定刻16:00に北条へ到着。市境まで迎えに来てくれた北条地区コミュニティの江尻会長がバスに乗り込んで先導してくれ、高柳「じょんのび村こども自然王国」という県立の研修宿泊施設で北条地区の交流会の皆さん21人とご対面しました。北条地区戸田さんの司会で江尻会長・五十嵐会長の挨拶があり、その後、双方自己紹介をしました。

この後バスからシャッターアートを鑑賞し、蔵元の石塚酒造で美味しい生酒を試飲、お土産にも買い込んで、交流会場の「温味庵(ぬくみあん)」へ。

北条・江尻会長の歓迎スピーチ、六会・五十嵐会長の答礼スピーチがあつて、両地区の



仲人・元防災科研の長坂立教大学教授のスピーチが印象的でした。「3.11後、仮設住宅への入居選定でハンデある人々を優先し、残った住宅へ健常者を入れたら辞退者が続出してしま

いました。支え合うコミュニティにとって多様性は大切ですね」。

温味庵のビュッフェ料理は地の利を生かした「山菜」がメイン、とは言え「お肉類、お魚類」も豊富で美味しかったです。どうやらシェフは都会で修行してUターンしたらしいです。さすがに米どころ「白いご飯」には人気集中していました。配席を北条・六会交互にしてもやや六会が多くて、サービス精神旺盛な北条の方々は話し相手をするのにおおわらわでした。



次はホテルの鑑賞です。高柳じょんのび村とは西へ山ひとつ隔てた鶉川の本・支流に無数のゲンジボタルが幽玄を奏でていました。この地名は柏崎市“女谷”、ここに伝わる民俗文化財“綾子舞”の出雲との因縁。なんとも古事記の母系社会が彷彿とされる雰囲気醸しています。ホテル柏崎ルートインに投宿。

明けて翌 28 日(土)は快晴。いよいよ北条小・中学校校庭での防災訓練へ北条のお米を使った新聞紙による「炊き出し」で参加です。六会のふるさとまつりに送り込むお米は、雪解け水が最初に流れ込む田んぼで獲れた一番美味しいお米なのだそうです。

北条の防災訓練は午後も続きますが、六会は旅程の関係で 12:30 に出発です。その直前にサプライズがありました。中学生たちが「よさこい」を群舞してくれたのです。

焼けた校庭に裸足で飛び出して、ハッピーの裾を翻して踊る男女のダイナミックな群舞は、もうそれだけで大感激、感涙ものです。

ありがとう。



バスが回送待ちの間に北条の方が「みず」という山菜を届けてくれました。また「バスの中で食べなさい」と「おにぎり」と「三色山菜パック」を積み込んでくれ、見送ってくれました。

帰路、佐渡ヶ島が見える鯨波の「海産物センター」でお買い物。この日 15 時に高尾山 IC～相模原愛川 IC 間が開通したばかりの圏央道を通って帰ってきました。

後部座席は、炊き出しで活躍した防災リーダーさん達の会話が弾んでいました。

北条地区の皆さんのホスピタリティに浸った交流会でした。

交流会の準備、宿泊場所の手配、行程計画、現地での対応、バス会社との調整などで、六会市民センターの職員の皆さんや前自治会連合会会長の佐川さんには大変お世話になりました。